

4 バケツリレー訓練

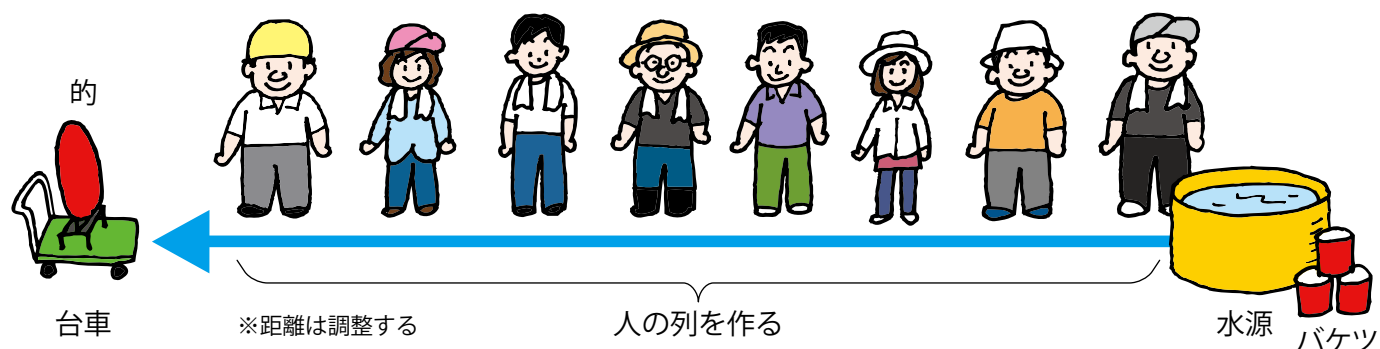
1 ねらい

小型動力ポンプなどがない場合の消火方法として、バケツリレーについて学びます。また、消火方法を訓練するだけでなく、大災害時に協力することの大切さを実感できるメニューです。

2 必要なもの

(品目)	(数量)
水源（プール、組立水槽など）	1つ
的を乗せる台車	1セット（競技時は2セット）
水を入れる容器（バケツなど）	多数（10個以上）
バケツリレーの的	1セット（競技時は2セット）

[基本的な準備例]



3 いろいろな訓練方法

(1) 競技形式（運動会でもやってみましょう）

バケツリレーを2チームで同時に行う競争方法です。バケツ、ボール、やかん、レジ袋など、何でもあるものを使います。的としては、ビーチボールを入れた空のドラム缶（天蓋が取り外せるもの）を用意し、これを水でいっぱいにしてビーチボールを外に落とすなど、小さな子どもたちも参加できる工夫をしてください。

競技形式は盛り上がりやすい反面、「夢中のあまり動作が雑になる」、「安全管理がおろそかになりがち」などの欠点もあるので、事故やケガには十分に注意をしておく必要があります。

(2) その他の工夫

バケツリレーは、「的まで水を運ぶ」という作業を全員で行う訓練です。全員が意識を集中できるように、資機材は可能ならば「火災をイメージできるもの」・「楽しめるもの」を準備しましょう。「楽しめるもの」は飽きさせることを防ぎ、意識を集中してもらう工夫の一つです。

4 並び方のいろいろ

それぞれ一長一短があります。訓練参加者の状態（人数や熟練度）により、どの並び方にするのか選択して下さい。

(1) 一列リレー

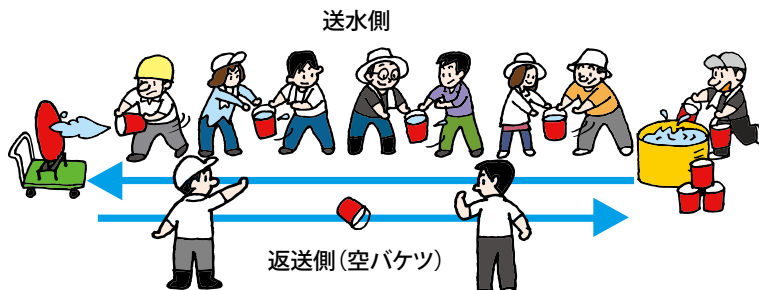
人数が少ない場合に適している方法。

約1.5mの間隔で一列に並び、水源から火元までバケツをリレーします。

空バケツを運搬する人員は送水側人員の1/5程度とします。

欠点は背中側が見えないこと。必要に応じ安全監視担当者を配置しましょう。

(例えば、列が道路横断する場合など)。



(2) 千鳥リレー

一列リレーの応用例。

一列リレーを一人ずつ交互向かい合わせになることで、お互いに相手の背中側の安全確認ができる方法。

欠点は人が並び終わるのに少し時間がかかること。



(3) 二列リレー

人数が多い場合に行う方法。

送水側、返送側の二列が背中合わせに並び、それぞれが安全確認しながらバケツをリレーする方法(向かい合わせに並ぶと、安全確認が背中越しになり困難になります)。間隔は片手間隔(約1m)が目安です。ただし人数が少なめの場合、送水側を約1m間隔で配置し、残った人数で返送側(空バケツ)を担当します。



ちょっと
アドバイス

顔を合わせ、協力し合って

バケツリレーは、大勢の人がお互い協力し合わないとうまくいきません。

まずは、事前説明をしない状態で実施し、工夫・協力することの大切さを体験してもらうのもよい方法です。また、バケツリレーはかなりの重作業ですので、子どもや高齢者の方などは無理をせず、ケガのないように実施しましょう。

雨天時でも屋内で工夫をして実施！

水槽の中に水にみたてたボールを入れ、バケツでボールを汲み上げれば、雨天時などは、屋内でもバケツリレーを実施することができます。